

5 労使関係についての認識

労働組合における使用者側との労使関係についての認識をみると、「安定的に維持されている」50.2%、「おおむね安定的に維持されている」36.6%、「どちらともいえない」7.2%、「やや不安定である」3.3%、「不安定である」1.8%となっている（第12表、第5図）。

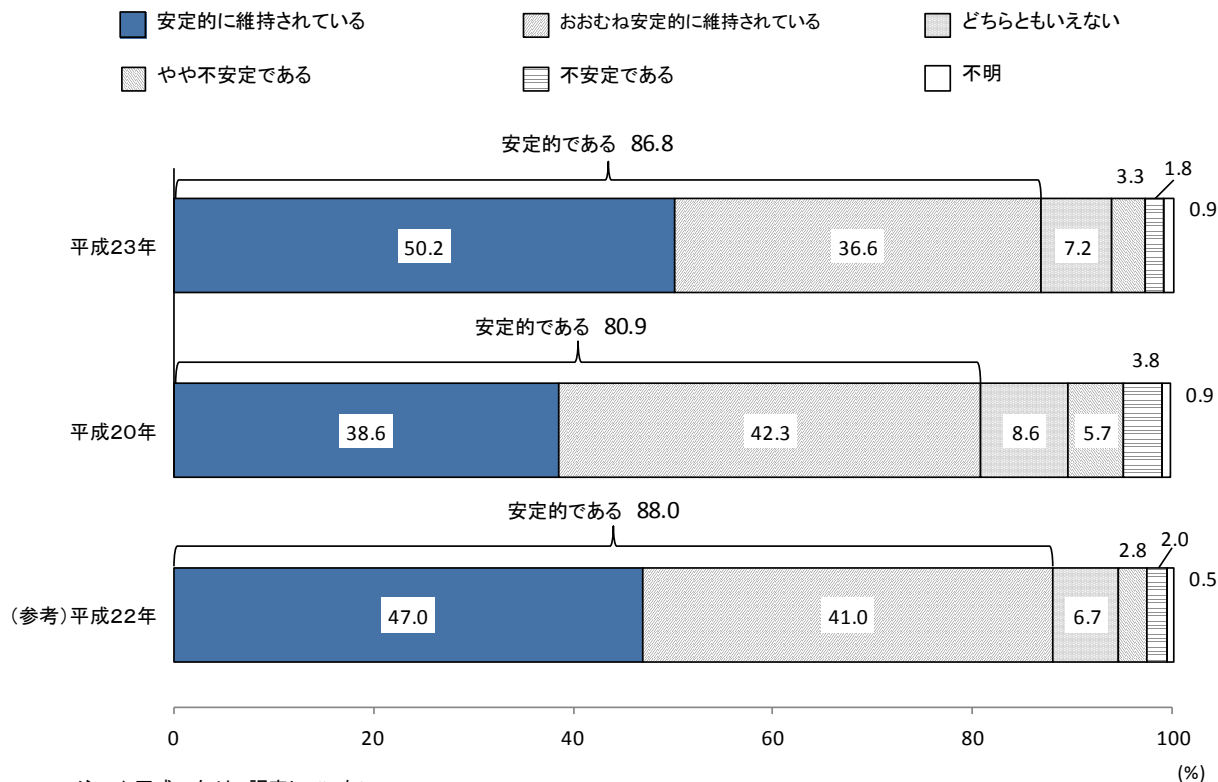
第12表 労使関係についての認識別労働組合割合

(単位：%)

区分	総数	安定的に維持されている	おおむね安定的に維持されている	どちらともいえない	やや不安定である	不安定である
計	100.0	50.2	36.6	7.2	3.3	1.8
< 企業規模 >						
5,000人以上	100.0	66.3	24.9	4.8	1.7	1.5
1,000～4,999人	100.0	60.5	34.2	2.7	1.4	0.7
500～999人	100.0	47.7	44.9	4.9	0.3	1.5
300～499人	100.0	42.7	42.1	9.8	1.5	3.9
100～299人	100.0	37.3	44.5	9.1	5.9	1.4
30～99人	100.0	34.3	39.3	14.0	8.1	3.0

注：1) 表頭「計」には「不明」が含まれる。

第5図 労使関係についての認識別労働組合割合



注：1) 平成21年は、調査していない。

2) 平成22年は労働組合員数規模100人以上の単位労働組合を調査対象としているため、比較は注意を要する。

3) 「安定的である」は、「安定的に維持されている」と「おおむね安定的に維持されている」の計である。